

諫早市立
喜々津小学校
学校だより

喜望

令和4年度 第11号
令和4年10月3日
文責 校長 金子友久



秋晴れの爽やかな日が続くこの頃ですが、その前までは週ごとに台風が襲来し、特に9月18日、九州に上陸した台風14号は、本県のみならず、西日本や東日本の一部を暴風域に巻き込み、大雨による被害ももたらしました。この台風によって、18日から19日にかけて諫早市美術歴史館は臨時休館となり、開催中だった諫早市・中学校科学展を残念ながら観覧できなかった方もいらっしゃったと思います。ちなみに、本校からは、下の4名の自由研究が展示されました。遅ればせながら紹介します。

6年 酒井 友さん 『「水ボール」の保持力&味調べ』
5年 波見 夏花さん 『色や角度による水の温まり方』
4年 本多 まゆさん 『キュウリを育てよう』
4年 緒方 ともさん 『空気中のカビを調べよう』

左記の子どもたち以外にも、1年から6年生までの12名の子どもたちに「佳作」の賞状を渡しました。

学校支援会議「喜々津っ子協育会」を実施



9月29日、第2回学校支援会議「喜々津っ子協育会」を行いました。この会は、市教委から委嘱を受けている学校評議員さんをはじめ、本校の子どもたちや学校教育に何らかの関わりをもたれている地域の方や保護者代表の方で構成されています。今回は、2学期の重点教育目標の説明とともに、10月30日の「楽校へ行こう」の説明と御案内をしました。そして、メンバーの方に、学習・環境整備・安心安全・読書の支援班に分かれていただき、子どもたちのために、今後どんな取組ができるかを話し合っていました。また、学校評価の取組やGIGAスクール構想の進捗状況、運動場の除草などについて御意見をいただいたり、登下校の見守り活動や地域による夏休み中の子ども教室の取組などの情報交換をしたりしました。

今後も、学校・家庭・地域の総がかりで子どもたちの力を伸ばし、育てていくために、ご支援やご意見をいただきながら、力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。

学力を伸ばすための週末課題

今年度も、全国学力学習状況調査（6年）、長崎県学力調査（5年）が行われ、本校児童の国語・算数の平均正答率は、全国平均や県平均を上回っていましたが、その分析と日々の授業を通して、課題となる実態も見られます。それは、長文の読解や要約、データ等から読み取った情報を答えること、言葉の働きを捉えることや文章の展開について感想や意見を伝え合うことなどです。

そこで、本校は今年度から国語力の向上に重点を置き、「自ら学び、考え、伝え合うことができる子どもの育成」という主題で研究をしています。その一つとして、読解力や語彙力を増やす取組をしながら、目的や条件に応じて『書く』、必要な情報を『読む』力を高めようとしています。

そのため、週末の家庭学習には、学年の発達段階に応じて、「週末課題」に取り組ませています。

6年生の取組の一部を紹介しますと、

- 新聞の記事を切り抜き、家庭でノート1ページの半分はその要約文を書く。残った半分はその記事に対する感想や意見文を書く。
- 「悲しい」など感情が動いたできごとの中心感情からマップを書く。マップをもとに中心感情そのものを書かずに別の表現（文章）で伝える。

（裏面へ続く）

○物語を書こう・・・中心人物を人間以外にして、その目線を通してストーリーを書く。
○他者紹介（歴史人物編）・・・歴史上の人物を調べて、紹介文を書く。
などです。

中学年でも、準備した新聞記事や写真の中から、自分の考えをもったり要点をまとめたりする宿題を出し、知らない言葉は辞書で調べることを通して、語彙力や読解力をつけようとしています。ご家庭でも、これらの取組へのご理解をいただき、ご協力をお願いしたいと思います。

秋の全国交通安全運動終わる

秋の全国交通安全運動が9月21日から9月30日まで行われました。この期間、PTAの当番の皆様には、朝のお忙しい時間に立哨活動のご協力をいただき、誠にありがとうございました。



2学期の大きな行事に向けて

2学期は、体育・芸術的行事も盛りだくさん。それぞれの学年で、準備や練習を始めています。

4年生は、11月10日に開催される**小学校音楽会**の練習に取り組んでいます。音楽会は、「弾けるようになった」「歌えるようになった」だけではなく、音を揃えたり抑揚をつけたりして、聞く人に感動してもらえるレベルにまで高めなければいけません。そこで、子どもたちは、音楽の授業だけでなく、始業前や昼休みにも音楽室へ集まって、自主練習をしています。

6年生は、11月1日に開催される**小体連体育大会**の練習を始めました。小体連の目的は、友好的な関係の中で、自分の体力や技能を競い合うところにあります。ですから、練習の段階から自分磨きをしてこそ、競い合いになるし満足感や高い評価を得ることができます。そこで、各学級では、話し合いを通して目標を決め、全員での達成をねらっています。

また、体力の向上を図るとともに、学級の友達と運動する楽しさや達成感を味わい、好ましい人間関係を育むため、今年度も「フィットネスチャレンジながさき」にエントリーします。学級によっては、始業前に運動場に出て、長縄の「8の字跳び」の練習をしています。

いずれにしても、**前向きに挑戦しようとする姿**は、実に美しいものです。全ての子どもたちが輝くように、一人一人が目標をもち、気持ちを合わせて練習し、本番に臨んでほしいと思います。



コラム 持続性という課題

昨今、SDGsの普及とともに、「持続可能」という単語をよく目にするようになりました。「持続性」は子育てや教育においてもは大切であり、そのための持続力は、苦しい時にも目標に向かって進む「粘り強さ」だけでなく、コツコツと積み上げるような「継続する力」も含みます。できるだけ多く身に付けてほしい力ですが、最近では不足している力の一つだと言われています。

持続性は、0から1へ、1から2へ…というように、徐々にその程度を増やす経験を積み重ねることで磨かれていきます。また、10できることをいつも5とか6で止めていては、真の持続力は身につけません。

では、これまでそういった積み重ねができていない、持続性に乏しい場合、どうすれば良いのか？それは今後、何かしらの課題に取り組ませる中で磨いていくしかありません。

そのためには、読書でも良いし、スポーツを通してでも良いでしょう。あるいは、毎日の宿題をやり通すことを通して持続力をつけることも、一石二鳥で良いかもしれません。

その際のポイントは、まず、その子にできそうなことから始め、徐々にハードルを高くしていくことです。「ここまで出来れば良い」という目標を決めてやり、「できた」という実感を持たせることが大切です。時には、厳しくやり遂げさせることも必要ですが、そればかりでも持続力はつきません。さじ加減が難しいところですが、そこを工夫することも大人の勤めではないかと思えます。